

ICTへのアクセス拡大

ICTへのアクセスが地域や年齢、障がいの有無などによって左右されることなく、誰もが等しくICTの恩恵を享受できる社会を実現するため、情報通信インフラの整備やユニバーサルデザインの推進を積極的に進めています。

基本的な考え方

世界のインターネット利用者数は20億人を突破し、ICTは人々の生活を支えるインフラとして欠かせない存在となっています。しかし一方で、開発途上国ではブロードバンドのインターネットはほとんど普及しておらず、この情報格差(デジタルデバイド)が経済発展を阻む要因となっています。

富士通は、世界中の人々がICTで情報をスピーディに取得し、あらゆる経済活動における機会(チャンス)を等しく手にすることができるよう、デジタルデバイドの解消に向けたさまざまな取り組みを進めています。

取り組み事例 1

インドネシア国内の海底ケーブルネットワークを建設

富士通は、ドイツのケーブルメーカーであるNorddeutsche Seekabelwerke GmbH社と共同で、インドネシアのパリ、カリマンタン、スラウェシ、ジャワ、ロンボクの5島を結ぶ同国初の大容量通信ネットワークを敷設しました。

このプロジェクト「JaKa2LaDeMa(ジャカトゥラデマ)」は、インドネシアのPT Telekomunikasi Indonesia様向けに、総延長1,800kmの大容量海底ネットワークを敷設したもので、インターネット、映像、データの通信を支えるインフラとして、インドネシアの国民生活の利便性向上に貢献します。



通信システム敷設の様子

取り組み事例 2

中国におけるICTインフラを構築

富士通は、6億人強の加入者を誇る中国移動通信集团公司様に、UNIXサーバとストレージシステムを合わせて500台以上導入し、加入者情報や料金請求など多種多様で膨大なデータ処理を支えています。

また、富士通は、中国全土での通信・教育・政府などのお客様に対しても高信頼なICTインフラを提供しており、業務支援システム、ビジネス分析システム、ネットワーク管理システムなどとして活用されています。今後も、グローバルなICTパートナーとして、信頼性の高い製品、ソリューションとサポートを提供していきます。

取り組み事例 3

アフリカ・中国でスキャナの販売網を拡大

PFUは、紙の資料をデジタル化する業務用のイメージスキャナ「fi(エフアイ)シリーズ」を提供しています。これまでに185の国と地域で販売・サポートの実績があり、世界No.1のシェアを誇っています。近年では、ナイジェリア、ガーナ、ガンビアをはじめとするアフリカ各国での需要が増加しており、電子政府の実現などに向けた本格的なICT活用の第一歩として、重要な役割を果たしています。

2010年には、販社との連携のもとで販売網を強化し、アフリカでの販売実績を46カ国に拡大、政府や金融機関などの業務効率・生産性向上に貢献しています。

また、中国国家统计局様が2010年11月から実施している第6次国勢調査(全国人口普查)プロジェクトにおいても、富士通グループはスキャナ1,700台と中国語OCRソフトウェアを提供し、調査結果の正確で迅速な集計に貢献しました。



ガーナでの製品説明会にて

取り組み事例 4

ラオスにおける遠隔医療システム実証実験

富士通は、APT(アジア電気通信の国際機関)様の支援を受け、ラオスの電子政府の発展に貢献しています。その一歩として、例えば医療分野では、中央病院にデータベースを導入し、地方病院のアクセスポイントを開設するなど医療情報の共有に向けた基礎基盤を構築しました。また、ラオスの地方医師を支援するためのICTシステム構築や、医師同士のコミュニケーション促進に向けたウェブベースのビデオ会議の導入、画像データを送受信するための環境整備も進めています。

これらの経験やノウハウを活かして、富士通は開発途上国の電子政府の発展に貢献していきます。



遠隔医療のトライアル

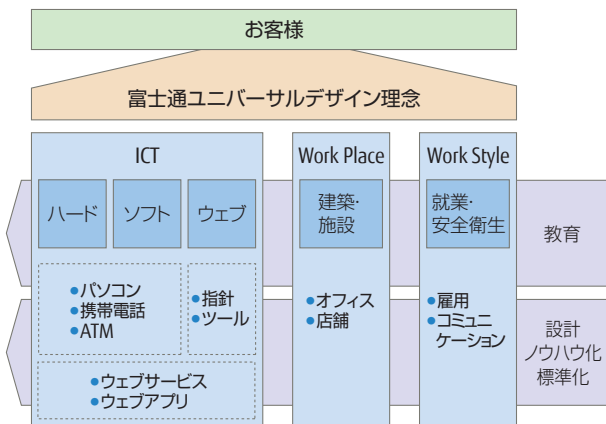
より多くの人に機会を提供するユニバーサルデザイン

富士通グループは、多様な人々がICTを効果的に活用し、それによる機会を等しく享受できる環境を実現することを社会的責任と捉えており、ユニバーサルデザインの推進に取り組んでいます。

富士通グループは、ユニバーサルデザインを企業の重要な経営戦略の一つと位置づけ、社会的責任を果たすために自ら積極的に実践し、その成果を製品やサービスに活かすことで社会の生産性を上げ、利用者の満足度を高め、お客様ビジネスに貢献します。

WEB 富士通グループのユニバーサルデザイン
<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/>

富士通グループのめざすICTのユニバーサルデザイン



取り組み事例 1

社会とのコミュニケーション

富士通グループは、製品やサービスに積極的にユニバーサルデザインを採用するだけでなく、それらの活動を多くの方に知っていただくための取り組みも積極的に進めています。

- 富士通のウェブサイトについてJISに基づく監査を実施し、同規格の等級AAに準拠することを最終目標とした、アクセシビリティ向上を進めています。

- 質の高いユニバーサルデザイン社会の実現に向けた研究発表や事例紹介などが行われる「国際ユニバーサルデザイン会議」に参加し、富士通グループの考え方を紹介するとともに、来場者から「明日のUDについて」をテーマにメッセージをいただき、公開サイトで紹介しています。



来場者からのメッセージ

WEB 明日のUDへのメッセージ
http://jp.fujitsu.com/group/fdl/activities/ud2010/message_global.html

取り組み事例 2

「らくらくホン」、 「らくらくパソコン」

2001年に(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ様に納入を開始した携帯電話の「らくらくホン」は、多彩な機能を簡単にご利用いただけるよう工夫した商品としてご好評いただき、2011年3月には累計販売台数が1,930万台を突破しました。

また、2008年には、「らくらくパソコン」シリーズの販売を開始しました。入力したい文字がひと目でわかる「らくらくキーボード」や、やりたいことがすぐに始められる「らくらくメニュー」を搭載し、シニア層や初心者のお客様にととの「使いやすい」「かんたん」「あんしん」を追求しています。

WEB 富士通の携帯電話
<http://www.fmworld.net/product/phone/>

WEB FMVらくらくパソコン
<http://www.fmworld.net/fmv/rakuraku/>

取り組み事例 3

特別な支援を必要とする子どもたちをサポートする携帯アプリ

学習障がい、自閉症などの発達障がいや知的障がいのある子どもたちは、時間の理解、コミュニケーションや見通しを立てること、字を書くことなどにおいて支援を必要としています。

そこで、特別な支援を必要とする子どもたちとその指導者や保護者などを対象に、生活・学習をサポートする3つの携帯電話用アプリケーション「タイマー」「絵カード」「筆順」を開発しました。時間、伝えたいことや漢字の筆順を視覚化して表示し、障がいの特性に配慮したカラーフィルターやバイブレーションなどを利用して、子どもたちの理解を助けます。富士通の携帯用サイトから無償でダウンロードすることができます。

このアプリケーションは富士通が開発し、ICTを活用した教育と支援を実践している香川大学教育学部(坂井研究室)様と共同で実証実験を行い、機能や操作性を改善したものです。

こうした取り組みが評価され、富士通は2010年7月に第4回キッズデザイン賞を、2011年3月には「universal design award 2011」を受賞しました。

WEB 特別支援携帯アプリ
<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/>

